

オオシモフリスズメ

チョウ目スズメガ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

Langia zenzerides nawai Rothchild & Jordan

選定理由

日本における分布の東限および北限に近い。個体数が少ないうえ、生息地が開発されやすい里山である。

形態

開張13~15cmの大型種である。前翅は翅頂が鋭くとがり、樹皮状の模様がある。口吻は退化して短い。

国内分布

富山県、長野県、愛知県以西に分布するが、紀伊半島、四国南部、九州南部が分布空白域となっている。したがって、九州北部、中国地方、瀬戸内周辺から愛知、岐阜が分布中心域である。

県内分布

小松市、白山市、金沢市に分布するが、個体数はきわめて少ない。市街地周辺や低山地に生息し、樹木の少ない水田地帯でも得られている。近年の採集記録は金沢市の低山地に多く、能美市以南からは得られていない。

生態

成虫は年1回、4月から5月にかけて発生する。サクラ、ウメ、モモ等のバラ科樹木を寄主とする里山の蛾として知られている。幼虫は5月から6月に見られ、その後、地表の落葉などの下で蛹化し、越冬する。

生息地の条件

管理された明るい開放的な里山が維持されていること、食草であるウメ、モモ等のバラ科樹木が植栽されていることが重要である。

生存の危機

小松市、加賀市の平野部の既知産地は、公園化、宅地化等の開発により、現在は生息できる環境ではない。生息地である里山の開発および管理放棄による里山のブッシュ化が生息地の減少、分断を招いている。また、食草であるウメやアズノの木や林の減少も影響しているものと思われる。また、走光性が高いため、人工照明の増加が個体数の減少をもたらしている可能性が高い。(A, B)

特記事項

良好な里山環境の標徴種である。

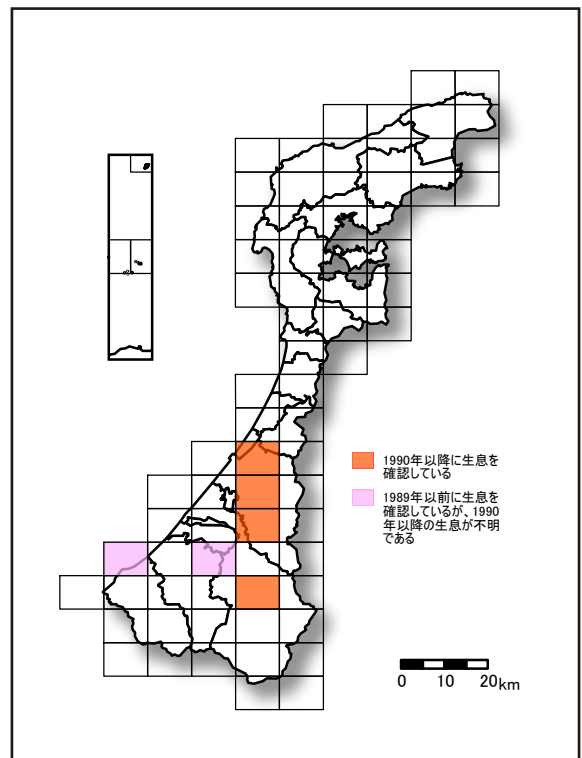
参考文献

杉 繁郎 1979. オオシモフリスズメ. 昆虫と自然, 14 (4) : 27-33.

富沢 章 2006. 金沢市におけるオオシモフリスズメの追加記録. とっくりばち, (74) : 81.



写真提供者: 富沢章



県内の分布